

2013 東北・北陸の旅

期間 4月10～5月25日



奈良・法隆寺

法隆寺は初めてのスケッチ。

写真や絵で見る、田園風景の中の法隆寺の風景は見つからなかった。

周囲が新興住宅で囲まれてしまっている。

「柿食えば 鐘がなるなり 法隆寺」の俳句は、あまりにも有名だが、その気で見れば、民家の庭に手入れされた柿の木が散在している。

寺を取り巻く塀の大きさが、寺の威厳をなおさらに大きくしてみせる。



富士山



この時期としては、雪が多いように思う。

富士川が海に出たところに私が勤めていた R 社の静岡工場があった関係で、富士山は見慣れているが、何度見てもきれいな山だ。午前中の雲は五合目より下にかかる。

富士川の道の駅で布小物を作って販売している昔お嬢さんたちと、しばしダベリング。

テーブルには、まんじゅう、ケーキ、クッキーの類も、さりげなく置かれている。たっぷり戴いた。

小名浜海岸(福島県)



スケッチの灯台は「塩屋岬灯台」。美空ひばりの「塩屋岬」「みだれ髪」の舞台になったところらしい。灯台の下には歌碑があり、ボタンを押すと歌が流れる。土産物の店は全て閉まっている。浜には津波で流された漁船が砂に埋もれている。復興は全く進んでない。写真右は海岸通りの街の跡。あるのは土台だけ。たむけられた花も枯れていた。



小名浜の港はこんな状況。岸壁がこれでは、港の機能は果たせない。復興はいつのことやら。右のかっこいいおっさんは東京から2泊3日のバスツアーで、三春の滝桜と震災の跡を見て回っているらしい。この人、東京都港区に住んでいるらしい。「東京は住むところではないですよ。仕事が終わったら、どこか田舎で生活しようとおもっています」と言う。しばし、楽しいダベリング。

会津に入る

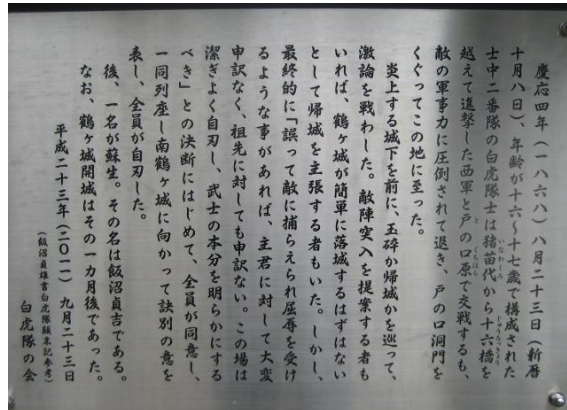
次の目的地の「南相馬」へ行くには、福島原発、飯館地区、浪江地区を迂回するために、いったん会津・二本松方面に入って、南相馬に出なければならない。福山から広島へ行くのに、いったん三次に入って、三次から広島に向かうイメージ。

そんなことで、会津に行くことになった。

会津に行く予定はなかったが、歴史に触れることができ、ことのほか良い寄り道となった。

会津盆地は想像より、はるかに広い。

福山・神辺平野の100倍くらいと思える。田において土を触っても、府中市の土より良いかもしれないと思えた。江戸期にも美田であったことと思う。会津藩はこの美田に支えられていたことが想像できる。



飯盛山は会津藩の白虎隊の少年たちが、会津城を眺めながら自刃した山。

15~17歳の少年たちである。

会津は戊辰戦争(明治維新成立時の戦い)の時、会津藩と官軍の激戦の地。

会津藩の編隊			
玄武隊	青龍隊	朱雀隊	白虎隊
五〇歳以上	三六歳・四九歳	一八歳・三五歳	一六・七歳
北	東	南	西
隊名は中国の四方を守る武神の名称なり			
会津藩校日新館の生徒が多数			
白虎隊 (数え年 十六七歳)		戦死	自刃
三三三名 (天人の将校も含ま)		三三三名	二〇名
初日外城の戦いの戦火を逃れと誤認した。		一九名は...	
落城	生き残り二九〇名		



白虎隊と「八重の桜」の新島八重の実物写真。長刀の横ざしが、気の強さを思わせる。

新島八重は1845年生まれ。私は1945年生まれ。ちょうど100歳の違い。



後に西南戦争では薩摩軍として戦った二人



後に西南戦争では官軍として戦った二人

いずれも、戊辰(ぼしん)戦争では官軍として会津を攻めたのか。

結局、明治維新も整うまでに、20年を要している。

維新政府成立後の経緯を思うに、山形有朋が最も上手に生きた人物と思う。

維新直後に汚職問題を起こしたが、西郷に救われた。

しかし、西南戦争では、西郷の敵にまわり、後に総理大臣まで上り詰め、生きながらえた。

それにひかえ、篠原や村田はあまりにも国を思う志が強すぎて(偏見もあったが)自滅した。



飯盛山からは遠くに会津鶴ヶ城が見える。

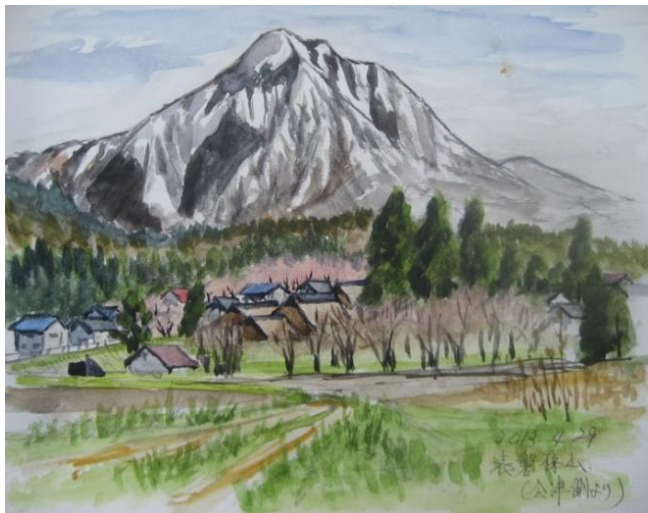
白虎隊の少年たちは煙をあげる鶴ヶ城を見ながら自刃したと伝えられている。

飯盛山では観光客用に、白虎隊自刃の舞が演じられていた。この人、きりりとした美人。

会津藩は戊辰戦争では、西郷隆盛を首班とする官軍に敗れ、南斗(現在の青森)の僻地に追いやられ多くの餓死者を出すはめになった。江戸後期には京都で守護職を務めた藩にとっては、天国から地獄に落とされた思いであっただろう。

その会津藩の士族が、明治10年の西南戦争(日本の歴史上、もっとも多くの犠牲者を出した、薩摩藩と明治政府の戦い)では、官軍(明治政府)の抜刀隊の役割をさせられ、田原坂では華々しい戦果をおさめた。歴史の皮肉を感じる。そして東日本大震災。なんと不運な県民か。

磐梯山スケッチ



表磐梯・会津側より



裏磐梯・五色沼



磐梯の水芭蕉

三春の滝桜(福島県)



4月28日、花は散っていたが、木を見るだけでも価値がある。

なぜか、この地区には樹齢数百年と思える1本桜が多い。信仰と関係があるのかもしれない。



三春・滝桜から車で10分ほどのところに「雪村庵」がある。

画僧・雪村が晩年を過ごした地で、ここにも桜の古木がある。滝桜にははるかに及ばないが、それでも木径はゆうに2メートルを超える。私には、滝桜より、雪村庵の桜の方が、風景にとけこんで、落ち着きを感じさせる。雪村庵は想像していたより大きな庵であった。

この日は滝桜の駐車場に泊まる。

広い駐車場の夜は私1台だけ。明かりも無く、人気の無い暗黒の闇夜。

闇夜に一人も、静寂の自然を味わえて、いいもんだな。

南相馬市・小高(おだか)地区



南相馬市・小高(おだか)地区の現状。

幹線道路の国道6号から映した画像だが、ほとんど手つかずの状態。震災から2年が過ぎたというのに。

小高地区は放射能の影響で、つい最近昼間だけの帰還が許可されているエリア。
地元の人に聞くと、行方不明者の搜索も出来てないところらしい。



小高の街は広島県府中市を少し大きくしたくらいの街。遠目には何事もなかったように見えるが、
人は誰も住んでいない。夜は帰宅が許可されていないので、死の街になり、不気味。



南相馬の一本松



津波で残された「一本松」は、どの地域でも見かけた。この松はまだ生きていた。
なぜ、陸前高田だけが話題になったのか不思議。

小高のボランティアに入る

南相馬のボランティアセンターは市役所の前の民家を借り受けておこなっている。

運営も市はタッチせず、ボランティア自身がやっている。

センター長は奈良県からやって来たひとらしい。



ボランティアに使う道具や長靴、手袋、一輪車、ペットボトル、カップラーメン等などは、全国の企業や団体から支援をうけたもの。

府中市のR社のものも数多くあった。

ボランティアは食事、宿泊、その他すべて自分持ちである。

カップラーメンはセンターに沢山あったが、ほとんどの人は手を付けない。各自コンビニで弁当を買って持参する。(健康面も考えて)



夜になると、南相馬市内にある、この道の駅に帰って各自の車で寝る。学生たちは軒の下で寝袋に寝る。

夕食、朝食は自炊する人、コンビニ弁当の人、様々である。私は自炊。

京都からやって来た人は、もう1年も、ここに寝泊まりしてボランティアしていると言う。

その人に100円で入れる風呂を教えてもらって、助かった。



朝9時に集し朝礼が始まる。

今日の作業の種類が発表され、希望者が手を挙げ、人数の割り振りを決める。

1グループが6～10人で作業場に散る。

16時に作業を終え、点呼をして解散となる。



農地シェア型太陽光発電モデルの実証 (福島ソーラーシェアリング事業)

1 事業の目的・概要
 本事業は、原発事故によりこれまで屋内退避等の指示があった地域において、力強い農業経営の一助となることを目指して、農地上での農業利用を確保しつつ、その影響の無い範囲で農地の上部空間を利用して太陽光発電事業が可能かどうかの先進的な事業モデルの実証実験を行うものです。

2 事業者 株式会社フォーハーフ
 住所：兵庫県加西市青野原町188
 連絡先TEL：0790-47-8001

3 事業名
 福島実証モデル事業
 採択年月日：平成24年 9月6日
 事業採択者：経済産業省
 福島県（企画調整部エネルギー課）

ソーラ発電パネルの組み立て、取り付け作業。

後列中央の帽子無しの方が地主。

津波の時、一番早く逃げたのが、要介護度3の父親だったらしい。しかも通りかかった霊柩車で。



家のかたづけ作業。

時計・宝石店だが、これを機に店をたたみ、家の半分を取り壊すとのこと。

「地震で隣の家は全壊したが、私の家は鉄筋だったので無事だった。地震の後に津波が来て、次に泥棒が来て、次にネズミの大発生。最後にボランティアさん達が来てくれて助かりました」
左から二人目、三人目が家主のご夫婦。私は右から三人目。

南相馬市亙理町(わたり)に

ここでもボランティアをする予定だったが、NPOの自宅にたどり着けず、断念した。

亙理町で骨董市に出くわした。何店か集まっている骨董市で2~3点を買った。

骨董は売る方も、買う方も、ほとんど病気(ある意味、だまし合い)。

高いところに掛けてあった油絵の気に入ったものがあったので、「1万円以下なら買い」と決めて交渉に入った。

「あの絵、降ろして見せてくれませんか。いくらですか？」

「う〜ん、う〜ん・・・1000円でどうですか」

「ま、少し他のものを見せてもらいますわ」・・・この駆け引きが重要。

20分くらい後に

「この絵、1000円？」

「800円にしときますわ」

(本当に1000円でいいのか)と聞いたつもりが

店主には(も少しまけてほしい1000円)に聞こえたらしい。

てなことで、作者には申し訳ない値段でゲット。

店主のおっさんは1分も話をしない内に、ワシを広島の人間と見破った。

言葉づかいでわかるらしい。

まいったまいった。ワシにはスパイは勤まらないな。

亘理(わたり)町・荒浜地区



この地区も、ほとんどの家は流されていたが、残った家も、使い物にはならない。

およそ、2階付近まで水が来たようだ。

仮設の土産物店が開店していた。缶コーヒーをごちそうになった。

大東岳(仙台市大泊区より)



車を走らせている途中、ご老人がスケッチしているのを見て、車を止めた。

この人、無口で会話は進まない。

ご老人より、少し角度を変えて、スケッチした。

大東岳1366m

宮城県仙台に入る



この国道の約5メートル下は水田
テレビで多くの車が水田から川の堤防を越
て流されていた映像はこの場所。

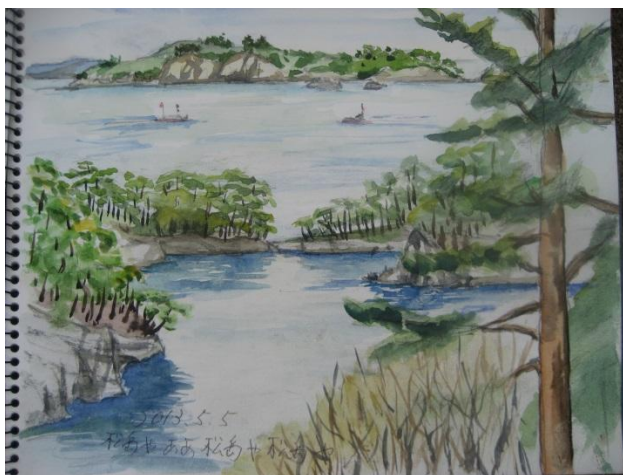


写真右手の波状の屋根が仙台空港。周囲は壊滅。

松島に入る



松島地区の JR 陸前浜田駅前の碑
駅は海から500メートルくらいの位置



松島は初めて来た所だから、地震で風景が変わったか
否かは解らない。島も松もおだやかであった

松島では、阪神淡路震災で被災した初老の人「私とおないどし」に出会った。



「神戸の場合は、すぐに、震災前に戻そう借金をしたり、無理をした人が
多く、破綻した人が多い。戦争後、ゼロから立ち直ったように、ゼロから
のスタートでないと、無理がありますよ。自分は安アパートに入って、新
聞配達をして、月14万円で生活しています。

新聞配達だけの収入で生活し、年金にはいっさい手を付けていない。
だから、心は安心です。東北の人たちも、無理をしては失敗しますよ」

経験者の談は説得力があった。新聞配達は、朝2時起きで、自転車
で配達するから、身体は元気になったと言う。

松島に着いた時はちょうどゴールデンウィークだったので、混雑を避けるために、足早に通り過ぎ、塩釜に行って、塩釜港の岸壁で野営した。



これは塩釜岸壁の朝焼け。

この猫たちも震災被害者

漁船は遊漁船に使っている。一人7500円は安い。一人でカレイを40～70枚揚げるらしい
漁港の施設は全壊で、大きな漁師街は閑散としていた。

震災跡の見学はこれでやめ日本海へ向かう

岩手県には行かない。どこを見ても同じ。

海岸沿いの街はあとかたもなく消え、海岸の防波堤はほとんど破壊されている。

震災から2年が過ぎても、海岸通りの街、防波堤、漁港・・・ほとんど壊れたまま。

10年や15年で復興ができるとは思えない。

除染やガレキ処理もテレビでは、進んでいるような報道をしているが、ほんの一部にすぎない。

未だにガレキを受け入れない県があると聞く。

なんということか。

困っている人がいる時は、助けろと教わったではないか。

いつから、自分さえよければいい日本人が増えたのか。

宮沢賢治の「雨にも負けず……」の精神はどこにいったのか……。

国道108を北上し、「あ・ら伊達な道の駅」に一泊す。

翌朝、栗駒岳のスケッチ場所を探すのに、半日を要した

栗駒岳



宮城県栗原市鶯沢より 栗駒岳遠望。田植の準備(5月6日)に忙しい農家の方のお話では、この時期、栗駒にこんなに雪があるのはめずらしい。今年は寒い。農家にはどの家も、栗駒の風を防ぐ「屋敷林」がある。



国道47号を北上し、スケッチの鳴子峡を過ぎれば
最上川沿いに酒田を目指す
最上川の水量は多い
「さみだれを あつめて早し 最上川」の句は
この川を見た人でないと理解できないと思った。
雷を伴う土砂降りの雨の中を
酒田へ……酒田へ。

5月6日に酒田に着く。

家を出て、25日で日本海に出たことになる。

酒田は、これといって見るつもりもなく、その日のうちに鳥海山(秋田県)を目指す。

昨夜からの雷を伴う土砂降りの雨は、鳥海山のふもとに着いた時は小雨になっていた。

じゃが、夜は寒い。

5月だと言うのに、冬衣装のまま布団にもぐり、夜をやり過ごした。



鳥海山のすそ野が日本海(秋田県)にそそぐ所に、この、でっかい道の駅がある。
日本海の旅のスタートはこの道の駅の4階にある温泉で、震災の垢を落としてから……。

5月7日、午前5時起床。鳥海は5合目まで雲の中。晩まで雲の中。

5月8日、午前4時半起床。鳥海は5合目まで雲の中。晩まで雲の中。

ようまくそに(府中の方言…暇つぶしの愚行)海をスケッチする。



しばらく、釣り人の姿を眺めていたが
釣れたしぐさは無い
時間つぶしにスケッチした
鳥海が噴火して流された様々な石が
波打ちわに、いろどりをそえ、変化を楽しませる
「さざれ石」もある
鳥海の噴火のすざまじさも感じる

暇をもてあまし、旅に出て初めての夕食を楽しむ。

600円の味噌ラーメン。



道の駅の中にあるラーメン屋さん。店主の夜の顔はテナーサクソ奏者。YAMAHA のテナーSAX を持っている。

最近、あまり吹いてなく、主に企画の役割をしているらしい。

実はこんな方に名プレイヤーが多いことを私は知っている。
心なごむ楽しいひと時を過ごした。

5月9日、午前5時起床。

鳥海は晴れた。全山、美しい姿を見せた。



ラーメン屋の店主に聞いたスケッチポイントに行く。水田に点在する島が九十九島。

田植準備の農家の人曰く

「今から350年前に鳥海が噴火して、土石が海を埋め、海の島が陸に浮かぶ島になった。噴火前は松島のような、海に点在する島だったらいい」

「私が中学生の時も(今から350年前)と言っていたが、今も(今から350年前)と説明している。わっはっは・・・」



昨夜までの3日間は「鳥海ブルーライン」は雪で通行止めだった。

春雪におおわれた山のすがしい姿の美しさを表す言葉はみつからない



ブルーラインは5合目の位置まで車で登れる。

スケッチ場所は5合目から見た奈曾谷溪谷。

溪谷の深さは800メートル

画面をはずれて左奥には岩木山、八甲田山も見える

私より先に来ていたプロのカメラマンは、スケッチが終わるまでの2時間、何回もレンズを交換しながらシャッターを落としていた。

少しの会話だったが、品格を感じさせる人だった。



鳥海をバックにした、この白い小屋が、なんともグッドマッチング。畳2畳ほどの小さな小屋だが鳥海的美しさに負けていない。

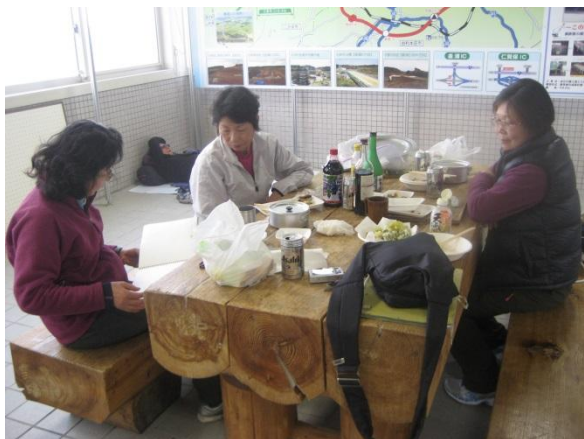
制作者は若い左官さんだが、このセンスの良さは脱帽して土下座して、さらに仰ぎ見るもの。

農作業にやってくる人たちのための休憩所にと、自分の土地に建てたもの。

私の地下室の作り方も丁寧に、図面まで描いて教えてくれた。

ラーメン屋の店主といい、この左官屋さんといい、秋田はいい思い出になった。

鳥海の山ガール



道の駅で男1人、女3人のパーティーに出会った。

昨日、雪の中を、鳥海の山頂に登ったというつわもの達。

山で採った「雪下ふきのとう」などを天ぷらにして食べていた。

男はダウンして、イモムシになっていた。

おにぎり、天ぷら、ポテトサラダなど、たらふくご馳走になった。

彼女たちは、道の駅で右のように「いもむし」になって夜を明かす。

「雪山のテントで寝ることを思えば、天国ですよ」と言う。

飯館村、村長の話

移動中、NHK ラジオで飯館村・村長の講演を聞いた。

「田舎の村長さんの、ねたみ節」くらいに予想していた。

話し方、内容……格調高く、こんな田舎にこんな「人物」が居たのかと驚いた。

何より

原発事故に対する不満や要望は、まったく話題にせず

自助、共助、援助の話の骨子とした。

「大切なことは自助であり、どうしても自分だけではできない時に援助をお願いすべきで、最初から援助ありきはだめです」といいきる。

「日本の大きな節目として、明治維新、敗戦、高度成長などあるが、低成長、成熟社会向かっている今も大きな節目だと思う。ここを、どのように乗り切るかは日本人にとって重要なことと思う」

スローライフ、欲しがらない文化への移行が大切だと説く。

スペインの格言に「多くを欲しがる者は不満が多く、欲しがらない者は不満が少ない」

ブータンの格言に「山にあるすべてのものは、人を助ける。だから大切にせよ」

等の話も、現在の自分に問いかける言葉のように聞いた。

真手(まで)の心を取り戻そう。

真手とは、心をこめて物をつくり、ものを大切にし、心をこめて人に接する心のこと。

かつての日本人には、これがあつた。

それが失われつつある現代社会。

話は、総じて、あれも欲しい、これも欲しいという心を見直し、自助、自立の人間社会を取り戻そうという話であった。

思うに、

それらは12世紀ころの鴨 長明に通じ、江戸後期の思想家・石田梅岩(ばいがん)の思想にも通じ、同じく江戸後期の歌人・橘 明見(たちばな あけみ)の歌にもつうじるものだと、聞きとれた。

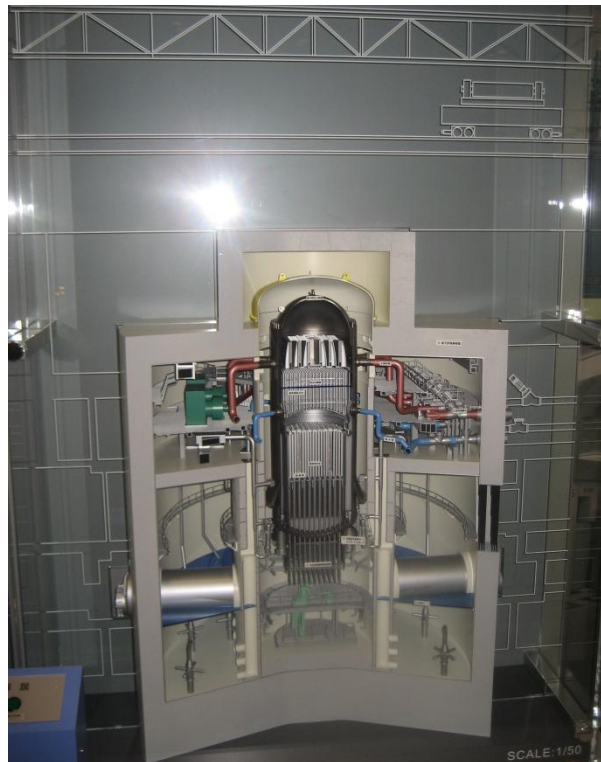
説得力ある話であった。

柏崎・刈羽原発



6年間の一人旅で玄海、島根、愛媛、・・・多くの原発資料館を見たが、この原発資料館はおそらく世界一の「原発模型」を持つものだと思う。1/5の模型は精巧に作られ、原子炉を知るうえで非常に

役立つ。ただ、来館者は私一人であった。



私は原発再開に賛成の意見を持つ。

核の灰の問題、地震・津波対策、活断層……多くの課題があるが、日本を含め鉱物資源の無い国にとっては、やはり原発は必要と思う。

大量の化石燃料を使えば、地球温暖化はさらに加速する。温暖化の弊害は原発の10基や20基の事故の弊害をはるかにしのぐ。

再生可能エネルギーの技術もまだまだ確立されていない現状では、同時並行で行かざるを得ない。

科学文明の進歩の過程には、必ず「便利」と「危険」が表裏一体の関係を持っている。

鉄の発見は人類に多くの「便利」を生み出したが、多くの「殺人武器」をも生み出した。

ダイナマイトの技術は今でもトンネル掘削、鉱山には欠かせないが、多くの「殺人武器」を作った。

殺虫剤、化学肥料、建築資材などの化学製品の進歩は農産物の収穫量を飛躍的に増大させたが土壌汚染、水質汚染、アレルギー……などの負の側面も増大させた。

自動車、飛行機の発展は生活の便利さを享受させたが、環境汚染、事故死をも増大させた。

文明社会は常に「進歩」と「危険」をかかえて、それをコントロールしながら更なる進歩へと向かう。

日本は明治維新を境に、米(こめ)中心の文化から、西欧の物質文化へと大きく舵を切った。

以後、100年で欧米に追いつき、現在は世界のトップ争いをしている。

たかだか150年で物質文明の先頭を行く国になったのだから、ひずみも多い。

だからといって

米(こめ)文明にはもどれない。

もがき、あがきながらも、ひずみを修正しながら進む以外に道はない。

どこの国も、歪を抱えている。

温海(あつみ)・鶴岡

鳥海のスケッチを終え、新潟県・道の駅「あつみ」にて野営。
朝食を済ませて、道の駅をぶらぶらしていると「鶴岡」の看板を持って立っているガイジンがいた。
ヨーロッパ人らしい。「よかったら、乗りますか」と日本語で話しかけた。
「お願いします」と、たどたどしい日本語が返ってきた。



アメリカの牧師さんだった
英会話の勉強にと思い「会話は全て英語でお願いします」と頼んだ。
鶴岡で結婚式に牧師として行くらしい。
話題は日本の自然の話、家族の話、仕事の話……多岐にわたった。
私の英語については、「発音がナチュラルで GOOD」と褒めてくれた。
発音には特に気を付けているだけに、お世辞100倍でもうれしい。
私を「ポール」と呼んでくれと言ったら、サイモンとガンファンクルも「ポール・サイモン」だよと言っていた。
英会話の実践教室になった。

新潟



新潟港に行って足を休めた。点検整備らしく、イカ釣り船が何度も明かりを付けたり消したりしていた。



港に隣接する海産物・土産物売り場の広場で金物を売っているこの方、定年退職して、この商売を始めたらしい。
あまり、儲けにはならんが、日々が楽しいと言ひ、缶コーヒーをおごってくれた。
この人、S19年生まれだった。
この後、別の生意気な奴とケンカした。引き分けだった。
子供のケンカと同じで「おぼえとけや……」で終わる。

新潟・七浦海岸・巻漁港



漁港の人たちが共同で海鮮店をやっている
100円で「このしろ」の刺身を造ってもらった
主食は自前で、カセットコンロを持ち込んで
調理場を借りて、店のテーブルで作って食べ
た。

おいしい干し柿をいただき、しばし楽しい人生
航路を話し合った。

ここは波が荒く、去年は、あのウリンチ小屋も
全部流されたという。

長岡市・出雲崎



出雲崎は昭和30年ころまで、海底油田あった所。
写真は道の駅の岸壁から30メートルのところにある
油田跡。今でも時々ガスが出るらしい。

最盛期には油田ヤグラが100本くらいあった。

昭和20年生まれの地元の人、「わしが子供のころ
も50本くらいはあったと言う。

世界初の海底油田であった。

江戸時代は、田んぼのあちこちに

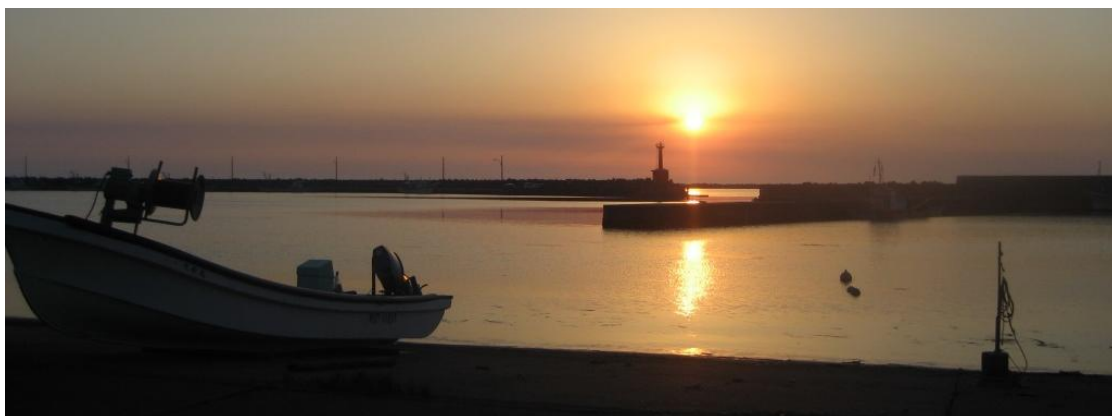
「燃える水」が出ていて、燃料として使われていた。



出雲崎のタコツボあれこれ。中央はハマグリを合わせたもので、飯ダコをとる。右は大タコ用。イイダコ用と大タコ用を記念にいただいた。



出雲崎にはなぜか多くのライダーたちがやってくる。中央の若い衆の皮ジャンは20万円。その皮ジャンを借りて、おじさんも、しばしライダー気分



出雲崎漁港の夕日



出雲崎の駐車場で布団や洗濯物の乾燥
1週間に1回はこんな感じで虫干し

蟻やダニが入り込むので……

良寛記念館



耐雪庵

昭和六十三年秋、東京と名古屋で開催の良寛遺墨展で、五合庵を模して展示されたものが、主催の朝日新聞社より寄贈された。これに、良寛記念館の産みの親である佐藤耐雪翁にちなんで耐雪庵と名づけた。

五合庵は良寛さんが約二十年に亘り、最も長く住んだ庵。その間に、和歌、漢詩、書他多くの作品を遺し、幾多の文人墨客とも交流している。

出雲崎は良寛さんが生まれ、晩年を過ごした所。岡山県玉島の円通寺で修業されたこともあって、円通寺には何度も行き、住職さんともお話しした。出雲崎では記念館の館長としばし、良寛さんのお話をさせてもらった。良寛の生き方にあこがれを持った時期もあった。



良寛記念館は出雲崎の街の背の小高い山の上にある。山から見下ろす風景は新潟県、海の風景百選の NO・1 とのところがいい。しかし、絵にするには構図的にむずかしい。

東電の社員

出雲崎では、偶然に東電の社員とお話する機会があった。

彼は、震災の日に福島第一原発におり、その日から、原発の管理棟で40日間、復旧作業にあたったと言う。40日間、乾パンとペットボトルの水だけで過ごす、糞が出なくなり苦しい。もちろん風呂には入れず、顔を洗う水も無い。最初は放射能で死を覚悟し、そのうちストレスで死を覚悟したと言う。

他にも、この紙面には書くことができない様々な苦勞や未来がある。人生設計がめっちゃめっちゃになったと言う。

彼らも被害者だと思った。

原発バブル

出雲崎ではこんな人にも会った。

クラフトを仕入れて、小売店に納入している人で、東北5県を回っていると言う。

曰く

「本当に困っているのは、宮城、岩手の人ですよ。漁も半減、価格は叩かれ、農産物も売れない。

原発の周囲の人は、国から高額な補償金をもらって、飲めや食えのバブル現象」

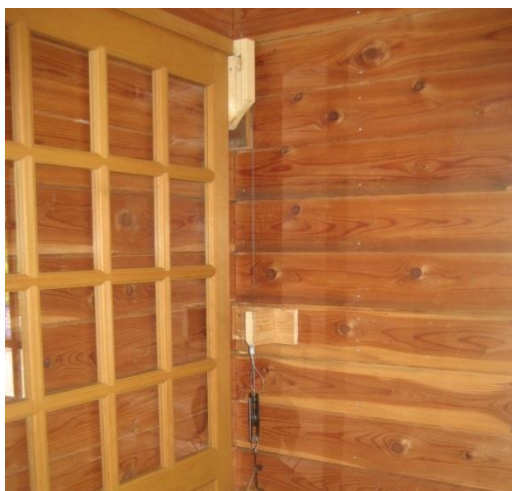
そういえば、同じような話しを、ほかに2人から聞いたから、まんざらウソでもなさそうだ。

「こんな話は、知れたら困るからテレビには出ませんよ。保証の境目では、言い争いもおきていますよ……」

白馬へ向かう途中のしゃれた CAFFE



左の家が CAFFE。青い屋根の家がランプ店。美人姉妹が出迎えてくれた。左のお姉ちゃんとそのご主人が二人ですべて手作りしたそう。なかなかやるな！



テーブルも内装も、ドア開閉装置もすべて手作り。

いやはや、まいったまいった。

冬は雪が2メートルくらいつもるが、脇の幹線道路は除雪さ

れるから、今度の冬は店を開けてみようと思うと言う。

さわやかな姉妹に「タラの芽と何チャラをいただいた」

がんばれよ。

白馬：写真と絵



見比べてみると

写真は山が遠くに見え、山肌もはっきりしません。これは、写真の視写界深度とレンズの限界によるものです。

一方、スケッチは、山と家の距離が短い。山肌もしっかり見える。人間の目の方が、実物にちかいということです。

こんなこともあって、写真を見て描いた絵と現場でスケッチした絵は、それなりの人が見れば、見破れます。

私の風景画は必ず現場でスケッチします。また、絵の場合は絵として不要なものは現場の雰囲気をも崩さない程度なら、はぶきます。

印象派画家は印象を描くのですから、……。

スケッチをしていると、70歳くらいの男性がパンフレットのようなものを片手に「この風景はどこですかね」と話しかけてきた。

「山の形からすると、ここらあたりでしょう



「少し違うようなので、歩いてみます」

1時間ばかりして、またその男性がやって来た。「どうしても見当たりません……」

私はたまりかねて嫌味を言った「あなた、プロの写真と同じ場所を探すのだったら、プロの写真を買えばいいじゃないですか」

写真趣味の展覧会に行くと、同じ位置から写した写真が多い。

もっと、自分独自の見方ができないものか……と思う。

絵を描く人のなかにも、こんなタイプがいるが、じつに嘆かわしい。



松川の河原より、白馬をスケッチ。旅から帰って、百名山を登破したF氏が、このスケッチを見て、とがった山が槍で、山腹に日本一高いところにある露天温泉があると言っていた

道の駅・小谷(おたり)に泊まる

隣の一人旅の男性は長岡の人。

大阪に居たとき、繊維関係のルート販売をしていて、全国を回った。妻や子供は学校やしごとの関係で現在大阪に住んでいて、自分は故郷の長岡に住んでいる。

退職後は夢だった山登りをして、全国を回っている。

読書家で歴史物は作家を問わず、ほとんど読破したという。

歴史談義は楽しかった。

現在の新潟の繁栄ぶりについて「ロシア、中国からのガス、石炭の陸揚げ港になっているから……」

それで、わたしの「なぜ、新潟がこんなに活気があるのか……」という謎が解けた。

メタンハイドレード、シェールガスが本格的に商用化すれば、新潟は日本一の繁栄都市になる可能性がある。かつての、九州炭鉱都市のように……。

道の駅(おたり)の朝散歩

旅では、運動不足解消のために、毎朝30分程度の散歩をする。

散歩の途中で食材の収穫もする。



フキは佃煮にして保存食に。たんぽぽ、アザミの新芽は天ぷらにすると美味しい。三つ葉はサラダで食らう。ネギはうどんの薬味に。

あまったものは、対面販売。自然の恵みはありがたい。

雨の中、道の駅・親不知に入る

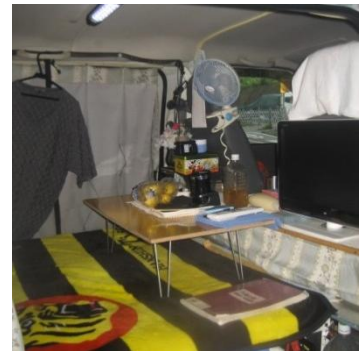
親不知は山が海に落ち込み、その絶壁を縫うように国道が走る日本一の難所。
道の駅も道路のガード下のスペースをやっと確保したもの。



おやしらず こしらず
親不知・子不知の由来
今から八百年前の源平盛衰の昔、越後の
ごひつかり 五百刈村へ移り住んだ、いけのだいなごんたいらのよりもり
池大納言 平頼盛
(平清盛の異母弟)の後を追って、この地を
きよもり 通りかかった夫人が、懐の愛児を波にさら
われ、悲しみのあまりこの歌をよみました。
親しらず子はこの浦の波まくら
こしじ いそ 越路の磯のあわと消えゆく
この歌が地名の由来といわれる親不知・
子不知は古来から旅人が北アルプス北端の
だんがい 断崖と、日本海の荒波を縫って、命がけで
なんごう 通行する、天下の難所といわれています。

親不知のつわもの

堺からやって来た人で、元新聞記者の69歳。
新聞記者というより、風貌はほとんどヤクザ。



この人、一日に米二合を食うと言う。車の改造は全て手作りで、20万円もかかってないという。
この人の頭の中を開いてみたい。知恵と工夫の成せるワザの数々。テレビも照明も冷蔵庫も電気はソー
ラでまかなえるらしい。ソーラ、見習わにやいかん。

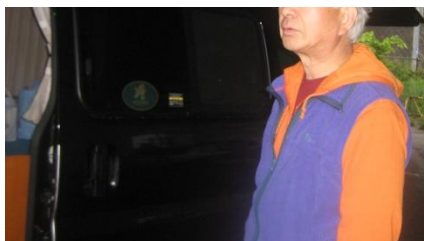
出雲崎のつわもの



福岡の人。この人の内装・飾り物は全て手作り。穏やかな話しぶりだが、飾り物のデザイン、仕上がりはみごとの言葉を超える。奥様も気軽に撮影に応じてくれた。

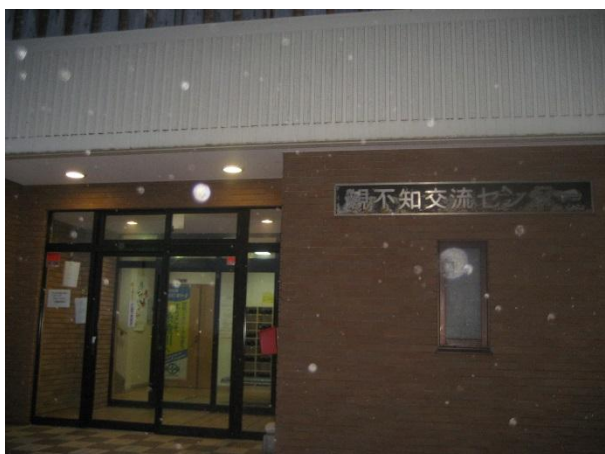
これから、初めての北海道に行くとのことで、私の知ってる限りの情報をお伝えした。

親不知のぼんぼん



内装の改造は全て業者にやってもらって250万円かかった。こざれいではあるが、便利さは堺の新聞記者の20万円に負けている。同乗の奥様も改装に反対だったらしいが、それを説得したことだけは立派。

親不知の知恵者



道の駅から山手に向かって5分のところに、風呂がある。入浴料金300円。

えびす顔のこの人、受付、案内、接待、集金を一人でこなす元漁師。

マグロの味噌漬の仕方、青魚の醤油漬の仕方、イカの塩漬の仕方を丁寧に教えてくれた。

どのレシピも最後に「それで一杯やるとうまいで……」がつく。

旅の途中でためしてみたが、珍味、珍味。

1時間ばかりの料理教室は、身体の疲れを吹き飛ばし、さわやかなとばりを迎えた。



旅で試した鮭とマグロの味噌漬け

富山県氷見市宇波漁港



富山湾を隔てて立山連峰を望む。

スケッチの途中、漁師さんと世間話に花が咲く。

「富山県知事は福島のカレシの受け入れを拒否した。子供たちにプラカードを持たせて受け入れ反対のデモもした。

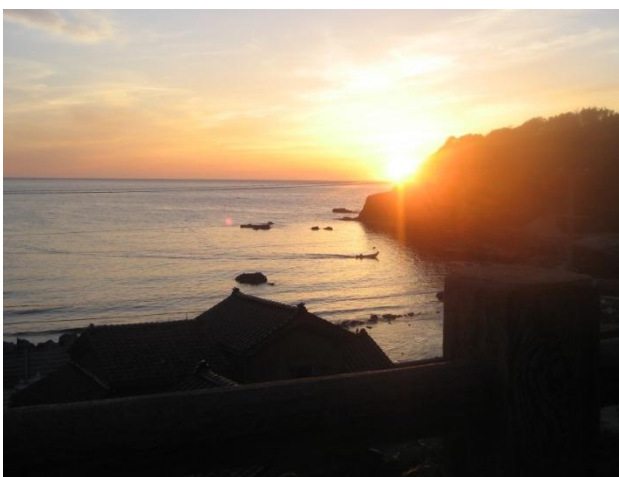
福島は困っているのだから、助けるのが道理のはず。町の人間は自分さえよけりゃよい。同じ富山人としてはづかしい」と顔をあかくして、手を震わせながら、やり場のない怒りを

私に向けて怒鳴る。

広島県知事も拒否した。私は湯崎には絶対に投票しない。こんな人たちは「絆とか、助けあいとか、復興とか、支援」などという言葉は使ってはならない。

宇波漁港では、網、ロープを沢山戴いた。

限界集落



石川県羽咋市志賀町前浜に落ちる夕日。

撮影場所は港を見下ろす小高い丘の上にある小さな休憩所。

今晚は、ここを宿営場所にする。

近所の家に行って飲み水を分けていただいた。夕暮れ時になると、三々五々、初老の人たちが海を見にやってくる。皆、この集落の人たち。

「この村は戸数45だが、住んでいる家は43戸で、68歳が一番若い。子供たちは皆、町に出て帰らない。もう20年もすれば消滅する」とさびしそうにしそうに話す。

今、港に入っている船も昭和20年生まれだよ。
不思議なことに、来る人、来る人皆、尾道、呉、音戸、福山、因島を懐かしそうに話す。
聞いてみると
皆出稼ぎの船乗りで、尾道などに行っている。
造船、海運の最盛期は尾道、因島は船乗りにとっては日本の中心であつたらしい。
機関士、コック、……職種は様々であった。

輪島

5年前の旅で知り合った Yさんと再会した。



5年前と同じ場所で再会した。
御年73歳だがアコーディオンの名手。
3時間ばかり、音楽談義は尽きることは無い。
5年前は「能登沖地震」の3ヶ月後。
写真の岬の端に見えるトンネルも地震でつぶれていた。この浜もガタガタだった。
「ここを訪れる大方の人は、地震の記憶はない。東北の震災も20年もすれば忘れられると思いますよ……」

輪島と言えば、「輪島朝市」「千枚田」が有名で、観光バスはほとんど全て、それを目指す。
私は「二度目に行く所ではない」と思っている。特に「朝市」は落胆の一言。
てなことで
輪島港(漁港)に行くことにした。





朝7時、定置網の水揚げ。輪島港の魚は濃い。
 大きさも量も、瀬戸内海では見ることができないし、美保関、境港にも勝っている。
 それでも、漁師さんは「今年は量が少ない」と言う。
 漁師の話では、この港には200隻くらいの船があり、その内130隻はサン網だという。
 イカ船が30隻、キンチャク(巻き網)が2船団。
 船は3年に1回検査を受けるが、皆、尾道に行く。



朝市に行くのか、おばちゃんたちが、港で買った魚をリアカーに積んで帰る

広島の旅人は選別台からこぼれた小魚をもらって刺身にしたり、焼き魚にしたり……。

射水(いみず)市の中古自動車屋



射水市の国道8号線沿いの両側には、中古自動車屋が3キロくらいにわたって軒を連ねる。50軒ちかくある。

1軒の店の保有台数はざっと300台。

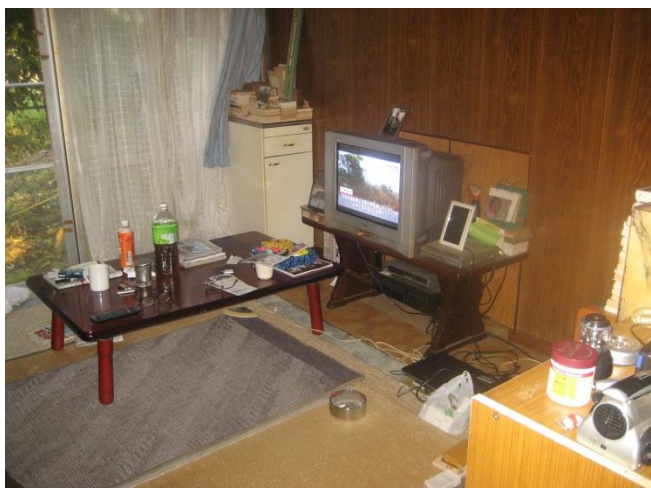
ロシア、パキスタン、タイ、ベトナムの店が多い。

経営も外国人で、皆、本国へ輸出するらしい。

日本人が廃車にしたものを、彼らが何十年も乗るのである。

それでも日本人自身は「生活が苦しい苦しい」と言っている

富山の寅次郎



2年前の九州の旅で、雲仙普賢岳で知り合った富山の旅人「寅次郎」

今回は虎次郎さん宅で4日間骨休めをさせてもらった。

男二人の料理はこんなもの。

余談ながら

私の旅の前半の時は、寅次郎は四国を回っており、途中私のアトリエ「風来庵」に3～4日泊まっていた。

称名滝



立山連峰のふもとにある称名滝は
落差日本一で350メートル。
三段分けて落ちる水は、この時期
雪渓に落ち込む。

雪渓をくぐった水は富山平野に注ぎ
豊かな水田を潤し、海に至って、富山
湾の寒ブリを育てる。

コンクリートから人へ



富山県南砺市(なんとし)祖山。

政権交代で建築中止になったダム。錆びた鉄骨構造物は橋を架けるためのもの。

ダム本体はこれからという状態。

写真の方は S21 年生まれの地元の人。心臓手術後は仕事も辞め、のんびり日々をやり過ごしていると言う。

「これをどうしてくれるんじゃ。これまでに使った銭は誰が払うんじゃ。ダムは人のためにならんと言うのか……」

私(旅人)は思う

ダムは自然を破壊する。膨大なお金がかかる。建設費用の一部は政治家に流れるのかもしれない。

じゃが

水を発電に利用し、雇用を生み、新しい自然も出来る。

ましてや、地元の人に新しい期待も与える。

途中で止めるのは、地元への背信行為ではないのか。

ダムは、もう100ヶ位作って、日本の豊かな水を電気に替えればいいのかと思うのは私だけだろうか。

白川郷

道の駅「白川郷」でしばしのダベリング。



左の方はプロの画家で良寛にあこがれて、15年くらい僧侶も経験したという。

右の方は岡山市妹尾から来た旅人。妹尾と言えば私の生まれ故郷の隣町。

絵画談義、仏教談義、音楽談義……3時間ばかりの楽しいダベリングであった。



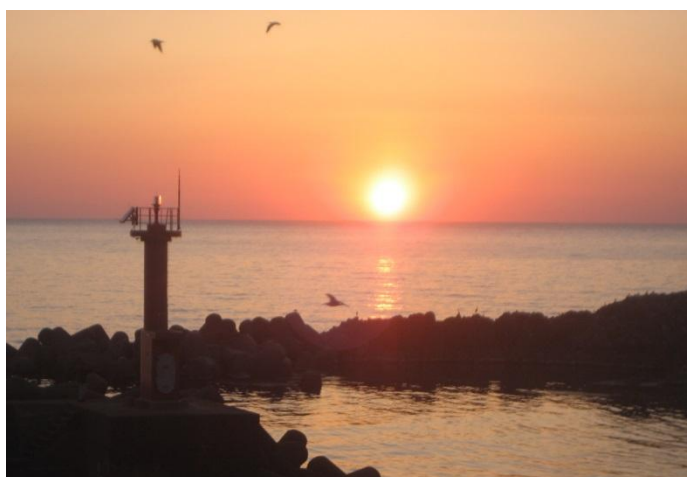
左が私が描いた油絵の白川郷。右がプロが描いた水彩画。あなたなら、どっちが欲しい？

福井市長橋町銚島

国道8号線の道路脇の狭いパーキングエリアに野営した。

朝の散歩でこの「銚島」に出会い、スケッチした。

そして、一日のんびりと過ごし、夕日を写す。



舞鶴港



舞鶴は横須賀、長崎、呉と並ぶ日本海軍の一大拠点



イージス艦は175ミリ砲以外に武器らしいものは見えない。ミサイルは垂直追尾のため外目には見えない。レーダーのかたまりに見える。



退役間近の古い護衛艦だが、ミサイル魚雷は完璧装備。砲は125ミリ一門。



高速艇は小型の船だがミサイル3基を装備して40ノット(時速約80Km)で走る



沖に停泊している護衛艦は退役艦。艀装(ぎそう・武器装備)は撤去している。このような退役船を東シナ海の海保に回す話もあったが、エンジンの形式の違いや主砲の違いで海保では操船できないらしい海に沈めるという。

国防についての私見

3年前にフィンランドの人と話す機会があった。私のたどたどしい英語故、どれほど通じたかはさだかではないが。

彼ら曰く

日本は豊かな国だから、もっと国防に予算を投入すべきと。すぐ北に中国、ロシアがいるのだから……。フィンランドはノルウェーとロシアにはさまれた貧乏国故、両国に繰り返し、繰り返し侵略された歴史を持つ。現在のロシアのサンクトペテルブルグもかつてのフィンランドの首都であった。

彼らは、そのことを今も悔しがる。

ロシア、中国は21世紀の今も、侵略を続けている。

広大な国土を持つチベットも未だに中国に乗っ取られたまま。

満州国は消滅し、現在は約半分を中国に取られ、「内モンゴル自治区」と言っている。

バルト3国はつい最近、ロシアの戦車に踏みつぶされた。

話し合いで紛争が解決するのであれば、軍隊はいらない。

しかし、悲しいかな人類の歴史は軍隊の強い国が栄えている現実がある。

ローマ帝国の繁栄も強い軍隊を有していたからだ。

人類史上、最も広い国土を有し、富める民族にしたいと願ったチンギス・ハーンも強い軍隊を有していた。

話し合いで繁栄したのではない。

そして、21世紀の現在も世界最強の軍隊を持つアメリカが最も栄えている。

これらの史実や現実は、どんな高邁な思想をもってしても、覆せない。

これが私の国防の私見である。

旅を終える

舞鶴からは一気に我が家に向かい旅を終えた。

旅の決算

期間 45日間

走行距離 5088km

総経費 14万2577円

経費内訳	ガソリン代	6万2548円
	食費(3食自炊)	2万4170円……1日三食で538円
	飲み物・間食	1万835円……1日当たり263円
	風呂代(10回)	3500円
	高速・フェリーその他	残り

旅の余禄に

今回の旅も多くの人々に出会い、沢山のお話をさせていただいた。
思うに、常識という言葉はイコール固定観念という言葉に等しいと。

東北の震災は、テレビと現実は大違い。

復興はほとんど進んでいない。

ボランティアも圧倒的に不足しており、まだ3年～5年はボランティアが必要と感じた。

そして復興はまだ、10年や15年ではできないと感じた。

2013年 旅日記 おわり